

知ってる？世界について

横森 栄一

平塚市立神田小学校

実践教科：総合的な学習の時間 25 時間

対象学年：6 年生 対象人数：30 人

(1) 実践の目的

子どもたちは、サッカーなどのスポーツを通して、他国について知っている。知っているといっても名前を知っている程度であり、その国の実情や人々の生活などについては当然知ることはできない。世界の国々について興味をもっている子はほとんどいるはずもなく、何か機会を与えて考えさせてみたいと思っていた。

ジンバブエは、経済的に考えると日本に比べ、豊かな国とは決して言うことはできない。教育に限って言えば、十分な教育を受けることができる子どもたちは非常に限られている。また教育を受けることができても、ノートや筆記用具などその学習環境が不十分であり、子どもたちは大変苦労している。もっとも現地の子どもたちにとってはそれは「当たり前」のことであり、教育を受けること自体が「幸せ」と感じているのである。

日本の子どもたちはどうであろう。学校に行くのは「当たり前」であるが、「幸せ」と感じている子どもたちが何人いるだろうか？筆入れの中に鉛筆や消しゴムがなくて困っている子がいるだろうか？

私は、このような国がまだ存在しており、自分たちがいかに恵まれた環境の中で生活しているかについて、子どもたちに実感してほしいと思っている。そして自分たちの今までの生活について、もう一度考え、感謝の気持ちをもって行動してほしいと願っている。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1~2 時限 世界の国々について考えよう 世界がいかに広いかを考える。	○知っている国とその理由をノートに書き出してみる。 ○友達の見聞きながら、いろいろな国について知る。 ○ジンバブエという国について知る	・世界地図 ・地球儀
3 時限 自分たちにとって大切なものは？	○プリントを使って、自分たちにとって大切なものをランキングにしてみる。	・「大切なものランキング」のプリント
4~6 時限 ジンバブエという国を調べてみよう	○調べてみたいことについていろいろあげてみる。 ○調べる内容が近い人とグループにな	

<p>7～11 時限</p> <p>ジンバブエの生活の様子・文化を知ろう</p>	<p>り、調べてみる。</p> <p>○現地の写真・映像からジンバブエの様子や文化について知る。</p> <p>○もっと知りたいと思うことをあげてみる。</p> <p>○調べたこと、分かったことをグループに分かれてまとめる。</p>	<p>・現地の写真・ビデオ</p>
<p>12～13 時限</p> <p>自分たちとジンバブエの子どもたちの違いを考える</p>	<p>○現地の学校の様子を紹介し、自分たちの学校生活とは随分違うことを知る。</p> <p>○自分たちの生活や学習に対する姿勢について再考する。</p> <p>○ジンバブエの子が実践した「大切なものランキング」を見て、自分たちと同じ所、違うところについて考える。</p>	<p>・現地の写真・ビデオ</p> <p>・現地の子が実践した「大切なものランキング」</p> <p>・ランキングをまとめた模造紙</p>
<p>14～19 時限</p> <p>総合学習発表会に向けて学習したことをまとめる、準備する</p>	<p>○総合学習発表会（神田ワールド）にむけて準備をすすめる。</p> <p>○ジンバブエの地方の家であるハットをつくる。</p> <p>○クイズ形式にしてジンバブエを知ってもらう。</p>	
<p>20～25 時限</p> <p>総合学習発表会</p>	<p>○「ジンバブエ」と題して、教室を“ジンバブエ”にする。</p>	<p>・ジンバブエの民族衣装</p>

◎ 授業の詳細

本実践は、「総合的な学習の時間」として行った。「開発教育」というものに対して、全くといっていいほど知識がなく、どのような実践を行うか、子どもたちにどのように伝えていけばいいのか、本当に毎日悩みながらの実践であった。しかし、子どもたちは「ジンバブエ共和国」という国に対して、大変興味を持ち、そのおかげで子どもたちと協力しながら実践を積み重ねていくことができたと思っている。以下、実践を報告する。

<1～2時限>

世界の国々について考えよう

まず世界の国の数を子どもたちにきいてみた。すると、ほとんどの子どもたちは数十カ国と考え

ていたようで、正解した子は一人もいなかった。また、世界総体の人口数についても、ほとんど知らないようであった。この点でも、子どもたちが世界に対してあまり関心がないということがうかがえた。さらに、自分が知っている国をノートに書かせたところ、10カ国以上書けた子は数人で、5、6カ国がやっとという感じであった。知っている国と言えば、サッカーや野球などスポーツで有名な国や、ニュースなどで話題になっている国ばかりであった。知っていてもその国がどこにあるのかについては、全く知らないようであった。

そして、私がジンバブエに行くことを告げると、当然「えっ、どの国？」とクラス中が騒然としてしまった。世界地図を開きジンバブエの場所を教えると、「うわあ、遠いな」という感想。「いつてみたいなあ」「どんな国かな」という興味ももったようである。「ジンバブエってどんな国だと思う」と質問してみると、次のような答えが返ってきた。

小さい

貧しい

- ・栄養不足で人がたくさん死んでそう
- ・栄養失調の子が多い
- ・ボロボロな感じ
- ・ちゃんとしたものを身につけていない。葉っぱとかつけてそう

あぶない

- ・戦争をしている
- ・道に骨が落ちている
- ・変な人がいそう
- ・泥棒がいる
- ・何者かに囲まれそう
- ・行った瞬間に殺されそう

その他

- ・ハエがたくさんいる
- ・黒人が多い
- ・建物がすくない
- ・虫とかをたべている
- ・槍を持っている人が多い
- ・裸足で生活している
- ・暑そう
- ・寒そう
- ・砂漠が多くて、そこら中にサボテンが植わっている

このように、子どもたちは「アフリカ」の国というだけで、このような偏見を持っていることがよく分かった。

<3時限>

「大切なものランキング」

この時間では、「大切なものランキング」というプリントを配布し、自分にとって大切なものを10位まで選ぶという作業を行った。この時、子どもたちには趣旨を告げずに行った。これは後に、ジンバブエの子どもたちと自分たちの考え方を比較するための資料とするためである。詳細は後に述べる。

<4～6時限>

ジンバブエという国を調べてみよう

私がジンバブエに行くということで、子どもたちはジンバブエという国をしっかりと調べてみようということになった。

(子どもたちが調べた内容)

住居環境 ・ 食生活 ・ 言語 ・ 小学生の生活やあそび

ほとんどインターネットで調べていたが、なかなか検索できず苦勞していた。細かく調べ上げることができなかつたので、自分たちが調べられなかつたことは、「担任の宿題」ということになった。つまり、「先生、これを調べてきて」と注文されたわけである。

<7～11時限>

ジンバブエ生活の様子、文化を知ろう

7時限からは、私が帰国してからの実践である。最初の2時間は、子どもたちの興味を引くため、現地ですべてきたビデオと写真を見せてみた。ジンバブエの「ハラレ国際空港」の様子をみると、「意外と都会だな」というつぶやきが聞こえた。そして、空港からハラレの中心部にいたると、「え、こんな所なの」「平塚より都会だ」と驚きの声が上がった。

また、いろいろな場面の写真を提示すると、いろいろな感想をもったようである。まずは自然について。ザンベジ川に沈む夕日を見せたとき、「日本では見られないだろうな」「

うわぁ実際にみてみたいな」という意見があがった。また、サザという主食を見たとき、「どんな味がするんだろう」「手で食べるのか」など、日本とは全く違う食生活について興味をもったようである。

そして、「もっと細かく知りたい」ということになり、私の持って帰ってきた資料やインターネットを使ってさらにジンバブエについて調べてみようということになった。この時は、自分の興味をもっていることについて調べたいということでグループに分かれることになった。次のグループである。

「ジンバブエのできるまで」グループ

「ジンバブエの歴史」グループ

「ジンバブエのスポーツ」グループ

「サザ」グループ

「ジンバブエの動物」グループ

「ショナ語」グループ

<12～13時限>

自分たちとジンバブエの子どもたちの違いについて考える

グループごとに調べたことを模造紙に表し、発表した。予想以上に子どもたちはしっかりとまとめ上げることができていた。子どもたちもとても満足そうであった。

そして、自分たちと同じ小学生がどのように生活しているのかについて知りたいと訴えられていたので、この時間で紹介してみた。まずは校舎の様子を写真で紹介したが、自分たちの学校とは全く違い、とても小さいと感じていた。また教室の入り口に鉄格子があることに気づき、その理由を述べると大変に驚いていた。

次にビデオで現地の小学生の様子を紹介した。子どもたちが生き生きと学習している様子や私が現地の子どもたちにゲームを教えている姿を見て、大変に楽しんでた。そして、ビデオを見ているう

ちに、現地の子どもたちが自分たちと同じことをしていることに気付いた。「大切なものランキング」である。ジンバブエの子どもたちと、神田小学校6年2組のランキングは以下の通りである。

大切なものランキング		
	ジンバブエの子どもたち	神田小学校6年2組
1位	家族 13人	家族 17人
	(理由)	(理由)
	・食物を与えてくれる	・自分を支えてくれる
	・学校に行かせてくれる	・世界でたった一つだから
	・一緒に遊んでくれる	・今まで育ててくれた
2位	健康 10人	平和 5人
3位	平和 4人	友達 3人
	勉強できること 4人	
	遊び 4人	
4位	お金 3人	お金 2人
	食べ物 1人	食べ物 1人
5位	友達 1人	健康 1人
		何でも言える自由 1人

このように、1位は同じ家族である。しかし、その理由に大きな差があった。子どもたちはその理由に大変なショックを受けたようである。親が食べ物を与えてくれるのは当然のことであると思っていたからである。そんな当然なことが、ジンバブエでは大変なことなんだと感じたのである。

○子どもたちの感想

ジンバブエの子どもたちがいかに大変な思いをして生活しているかが分かった。

学校に来ることができるということが本当に幸せなんだと思った。

自分たちは食べることに對して何にも感じていないけど、ジンバブエの子どもたちにとってはとてもありがたいことなんだと思った。私もこれからそういう気持ちを持っていきたいと思う。

<14～19時限>

総合学習発表会にむけて学習したことをまとめる

毎年、本校で恒例になっている「総合学習発表会（神田ワールド）」の題材を「ジンバブエ」についての発表にするということに決まった。子どもたちから「せっかくジンバブエについて学習したのだから、発表もジンバブエについてやりたい」という声が上がったのである。本当にうれしかった。子どもたちも少なからず、自分たちが学んだことを誇りに思ったようである。

そして今まで学んだことを、どのようにして分かりやすく伝えようかと話し合いを行った。紙芝居形式やクイズ、そして実際に「大切なものランキング」を見に来てくれた人にやってもらってジンバブエの子どもたちを紹介するなど、多くの活発な意見が出た。

<20～25時限>

総合学習発表会

総合学習発表会では、たくさんの保護者、地域、職員のみなさんに来て頂いた。そして子どもたちもはつらつと発表を行っていた。当日はジンバブエの地方の家である「ハット」と呼ばれるものの模型も作ってみた。とても似ているとは言えないが、子どもたちなりに努力した成果であると思っている。

◎成果と課題

前述した通り、私は「開発教育」に関して全くの素人であり、初心者である。私がこの実践を通して学んだことは、「子どもたちが知りたい」と思っていることは無限大にあるということである。教師が知っていることには限りがある。しかし、だからこそいろいろな知識や情報を得て、子どもたちに伝える使命があるのではないかと感じた。

今回の実践では、今まで知ることもなかった「ジンバブエ共和国」について学習することにより、子どもたちは飛躍的に世界の国々について関心を持つことができた。自分たちとは違う食生活・文化・学校など、想像もしなかった世界を知ることができたのである。またさらに知ろうとして、一生懸命学習を進めることができた。そして自分たちの生活について見直し、考えることができたように思う。確かに学習した内容はまだまだ一面的なものであり、本当の意味で理解をしたとは到底いうことはできない。しかしこれから子どもたちがいろいろな経験をする中で、「ジンバブエ」という国を通して、世界に目を向け、自身を振り返ることができれば本当にうれしく思う。

今後はこの研修で学んだことをさらに深めていきたいと思う。今回の実践とはまた違った形で子どもたちに伝えることができると思うので、しっかりと学び、少しでも「開発教育」に近づけていけるよう努力していきたいと考えている。